

[平成17年度設置]

富山大学 芸術文化学部

設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 富山大学  
平成20年4月1日現在

作成担当者

総務部企画評価グループ

グループ長 伊藤 正 則

電話番号 076-445-6038

(夜間) 076-445-6038

F A X 076-445-6014

e-mail sokikaku@adm.u-toyama.ac.jp

# 目 次

1	調査対象大学院等の概要等	1
2	授業科目の概要	4
3	施設・設備の整備状況，経費	18
4	既設大学等の状況	19
5	教員組織の状況	23
6	留意事項に対する履行状況等	35
7	その他全般的事項	36
	(1) 設置計画変更事項等	
	(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）	
	(3) 自己点検・評価等に関する事項	
	(4) 情報提供に関する事項	

# 大学等設置に係る設置計画履行状況報告書

## 1 調査対象大学等の概要等

### (1) 設置者

国立大学法人 富山大学

### (2) 大学名

富山大学

### (3) 大学の位置

富山県高岡市二上町180番地  
(本部：富山県富山市五福3190番地)

### (4) 管理運営組織

職名	認可時	変更状況	備考
理事長			
学長	選考中	サトウ トヨシ 西頭 徳三 (平成17年10月1日)	平成17年10月富山大学， 富山医科薬科大学，高岡 短期大学の再編統合が予 定されており認可時は選 考中であったため
学部長	選考中	マエダ イキ 前田 一樹 (平成17年10月1日)	新設により，認可時は選 考中であったため
学科長等			

(5) 調査対象学部等の名称，定員，入学者の状況等

- (注) 1 当該調査対象の学部・学科(専攻を置く場合は専攻)ごとに記入してください。  
 2 様式は，平成16年度開設の場合(平成19年度までの4年間)で示していますが，開設年度に合わせて作成してください。また，修業年限が5年以上の場合には，適宜，欄を設けて作成してください。

(5) - 調査対象学部等の名称，定員

調査対象学部等の名称(学位)	認可時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
芸術文化学部 芸術文化学科 学士(芸術文化)	4年	115人	年次 人	460人	

(5) - 調査対象学部等の入学者の状況

区分	報告年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平均入学定員 超過率	備考
		人	人	人	人		
A 入学定員		115	( - ) 115	( ) 115	( )	1.08倍	
志願者数		969	( - ) 534	( - ) 527	( )		
受験者数		817	( - ) 421	( - ) 423	( )		
合格者数		148	( - ) 141	( - ) 138	( )		
B 入学者数		138	( - ) 118	( - ) 120	( )		
入学定員超過率 B/A		1.20	( - ) 1.02	( - ) 1.04	( )		

- (注) 1 4月20日現在で記入してください。  
 2 ( )内には，編入学の状況について外数で記入してください。なお，編入学の状況が複数年次にわたって該当する場合には，(( ))書きとするなどし，その旨を備考欄に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 3 「平均入学定員超過率」欄には，開設年度から提出年度までの各年度の入学定員超過率の平均を記入してください。入学定員超過率については，小数点以下第3位を切り捨て，小数点以下第2位まで記入し，平均入学定員超過率も同様の方法としてください。  
 4 開設2年目以降は，前年度までの記入を残したまま，当該年度に記入してください。

(5) - 調査対象学部等の在学者の状況

学年	報告年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	備考
1年次		[ 1 ] 138	[ - ] 118	[ 1 ] 120	[ ]	
2年次		/	[ 1 ] 136	[ - ] 113	[ ]	
3年次		/	/	[ 1 ] 136	[ ]	
4年次		/	/	/	[ ]	
計		[ 1 ] 138	[ 1 ] 254	[ 2 ] 369	[ ]	

- (注) 1 4月20日現在で記入してください。  
 2 [ ]内には，留学生の状況について内数で記入してください。  
 3 開設2年目以降は，前年度までの記入を残したまま，当該年度に記入してください。

( 5 ) - 調査対象研究科等の退学者等の状況

区分 対象年度	退学者数 ( a )	入学者数 ( b )	入学者に対する 退学者数の割合 ( a / b )
平成 1 8 年度	計 [ - ] 2	計 [ - ] 1 3 8	[ - %] 1 . 4 %
	うち平成 1 8 年度入学者 2 人	うち平成 1 8 年度 1 3 8 人	
	( 主な退学理由 ) 他の教育機関への入学 2 人		
平成 1 9 年度	計 [ - ] 5	計 [ - ] 2 5 6	[ - %] 2 . 0 %
	うち平成 1 8 年度入学者 0 人	うち平成 1 8 年度 1 3 8 人	
	うち平成 1 9 年度入学者 5 人	うち平成 1 9 年度 1 1 8 人	
	( 主な退学理由 ) 他の教育機関への入学 5 人		
平成 2 0 年度	計 [ - ] 0	計 [ 1 ] 3 7 6	[ - %] 0 %
	うち平成 1 8 年度入学者 人	うち平成 1 8 年度 1 3 8 人	
	うち平成 1 9 年度入学者 人	うち平成 1 9 年度 1 1 8 人	
	うち平成 2 0 年度入学者 人	うち平成 2 0 年度 1 2 0 人	
	( 主な退学理由 )		
平成 2 1 年度	計 [ ]	計 [ ]	[ %] %
	うち平成 1 8 年度入学者 人	平成 1 8 年度 人	
	うち平成 1 9 年度入学者 人	平成 1 9 年度 人	
	うち平成 2 0 年度入学者 人	平成 2 0 年度 人	
	うち平成 2 1 年度入学者 人	平成 2 1 年度 人	
( 主な退学理由 )			

(注) 1 各年度の入学者(編入学者を含む)ごとに退学者数(各報告年度4月20日現在で、前年度までの入学者について)を記入してください。

2 [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。

3 「入学者数に対する退学者数等の割合」欄は、各年度における退学者等の数を開設年度から当該年度までの入学者(累積)で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。

4 「主な理由」欄は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。

・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

## 2 授業科目の概要

< 芸術文化学部 芸術文化学科 >

### (1) 授業科目表

授業科目の名称	配当 年次	単位数又は時間数			専任教員配置					備 考	
		必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
教養教育科目											
(リテラシー科目)											
イングリッシュ・コミュニケーション入門 1	1	1				1					
イングリッシュ・コミュニケーション入門 2	1	1									
イングリッシュ・コミュニケーション中級 1	2		1								
イングリッシュ・コミュニケーション中級 2	2		1								
英文表現・理解 A - 1	1	2						1			
英文表現・理解 A - 2	1	2			1						
英文表現・理解 B - 1	2		2								
英文表現・理解 B - 2	2		2								
インターネット英語	2		2								
資格の英語(TOEIC/英検)	2		2								
中国語会話	1		2		1						
中国語会話	1		2								
中国語作文	1		2								
中国語作文	1		2								
中国語読解	2		2								
情報処理入門	1	2				1					
コンピュータの基礎	1		2								
コンピュータによるデザイン入門	1		2					1			
EUCによる情報処理入門	1		2								

教育効果を考慮し、平成18年度から変更

一般科目	健康スポーツ	1	1		1		+
	健康スポーツ	1	1				—
	基礎ゼミ	1	2				
	プロジェクトゼミ	1	2				
	(立山マルチヴァース) 感性をはぐくむ	1・2・3	2				
	富山学 - わたしの富山	1・2・3	2				
	心(こころ),身体(からだ), そして生命(いのち)	1・2・3	2				
	(幅広い教養) ライフスタイル	1	2				
	暮らしとインテリア	4	2				
	生活と環境	2	2				
	生活の中のデザイン	1	2				
	ヒト・身体(からだ)・道具	3	2				
	人と金属とものづくり	4	2				
	人と道具	2	2				
	ボランティアの世界	2	2				
	身近な医学	4	2				
	地域と文化	1	2				
	建築と文化	1	2				
	芸術の社会学	3	2				
	文化と政策	2 3	2				教育効果を考慮し、平成19年度から変更
	文化と観光	1	2				
日本美術の見かた	2	2					

一般科目	西洋絵画の見かた	1	2					
	西洋演劇の歴史	2	2					
	デザイン工芸概論	1	2					
	デザインの世界	1	2					
	中国の演劇	4	2					
	中国の言語と文化	2	2					
	メディアアートの楽しみ	1	2					
	金属と装飾	4	2					
	異文化理解文献研究(英語)	3	2					
	異文化理解文献研究(中国語)	3	2					
	まちづくり	2	2					
	ジェンダー	3	2					
	アメリカ社会文化論	4	2					
	経済の仕組み	3	2					
	経営の仕組み	3	2					
	国際ビジネス	3	2					
	生産管理	3	2					
	会計の仕組み	2	2					教育効果を考慮し、平成19年度から変更
	管理会計	3	2					
	インターネットの仕組み	1	2			1		
	情報の読み方	2	2					
	世界の英語	2	2					
	建築とリサイクル	2	2					
	技術と社会	1	2					
		1						教育効果を考慮し、平成18年



一般科目	人と空間	2	2						度から変更
	人と木のある暮らし	1	2						
	物質と科学	1	2						
	力と形	1	2						
	形の発想	1	2						
	造形図法	1	2						
	デジタルテクノロジーの世界	1	2						
	造形のための数学の入門	1	2						
	造形のための物理入門	1	2						
	造形のための化学入門	1	2						
	美術の楽しみ(色で表現する)	2	2						
	美術の楽しみ(形で表現する)	2	2						教育効果を考慮し、平成19年度から変更
	工作の楽しみ	2	2						
	水泳・水中運動	2	2						
	コミュニケーションとデザイン概論	3	2						
展示・プレゼンテーション英語	3	2						教育効果を考慮し、平成20年度から変更	
専門科目	専門教育科目 (学部共通科目) (芸術の理解) 美学	2	2			1			
	日本美術史	2	2						
	西洋美術史	2	2						
	伝統文化論	2	2						
	音楽文化論	2	2						
	近代デザイン工芸論	2	2			1			教育効果を考慮し、平成18年度から変更
	意匠と文様	2	2						

専門科目	インタラクティブアート入門	1	2			1	
	(芸術文化と自然・社会との関係の理解)						
	建築史	2	2				
	工芸史	2	2				
	デザイン史	2	2				
	高齢化社会の情報文化	1	2		1		教育効果を考慮し、平成18年度から変更
	メディアアート基礎	1	2				教育効果を考慮し、平成18年度から変更
	電子ビジネス概論	2	2				
	マーケティング	1	2	1			
	社会環境と価値観	2	2				
	社会調査法	2	2				
	原価管理	3	2				教育効果を考慮し、平成19年度から変更
	光と色彩の科学	2	2				
	金属工芸技術史概論	2	2	1			
	働態学	2	2				
	工芸・デザイン材料	1	2				
	インターンシップ	3	1又は2				教育課程の充実を図るため科目を追加
	(造形芸術・デザインの技法)						
	アイデア発想法	1	2				
	デザインプレゼンテーション	2	2				
	基礎造形表現(平面)	1	2				
	基礎造形表現(立体)	1	2				
	基礎デザイン演習	1	2				
	ビジュアル基礎演習	1	2				
	生活用具制作	2	2				

専門科目

ものつくりのための描写演習	1	2					
デザイン工芸のための機械操作	1	2					
UNIXとプログラミングの基礎 1	2	2		1			
UNIXとプログラミングの基礎 2	2	2					
(基幹科目)							
(情報処理関連)							
コンピュータによるデザイン演習	2	2					
Web基礎演習	2	2					
情報ネットワーク	3	2					
デザインとユビキタス社会	3	2					
CADを用いた家具設計の基礎	2	2					
デザイン工芸のためのCAD演習	3	2					
(造形関連)							
絵画論	2	2					
絵画基礎	1	2					
造形基礎演習(木彫)	2	2					
抽象立体表現	2	2					
彫刻基礎演習(塑造)	1	2					
絵画技法・材料	2	2					
漆工技法・材料	2	2					
インタラクティブアート基礎演習	2	2					
(工芸関連)							
回転体制作基礎演習	2	2					
素地加工法	3	2			1		
鋳金工芸基礎演習	1	2					
複合鍛金	2	2			1		

専門科目

クラフト・デザイン	2	2			1		
工芸制作入門	1	2					
造形発想の手法	2	2					
金工基礎演習	1	2					
金工制作法	3	2					
漆工基礎演習	1	2					
家具構法	3	2		1			
木工基礎演習	1	2					
木工具演習	2	2					
成形合板演習	3	2					
蝋型鑄造	2	2					
漆素地制作	2	2					
漆塗装	2	2					
漆用具製作	2	2					+
クラフト製品の量産	3	2					—
	1						
木工機械加工実習	2	2					+
コース共同課題	2	2					
(デザイン関連)							
シンボルデザイン演習	1	2					
デザインマネジメント概論	2	2					
デザインマネジメント演習	2	2					
ビジュアルコミュニケーション演習A	2	2					+
パッケージデザイン論	3	2					
デザインリサーチ	2	2		1			

教育効果を考慮し、配当年次を変更

専門科目	デザイン調査法	3	2					
	メディア・プレゼンテーション	3	2					
	シルクスクリーン演習	1	2					
	デザイン製図演習	2	2					
	製品評価法	3	2					
	サーフェスデザイン	2	2					
	(建築関連)							
	住居論	1	2					
	建築計画	2	2	1				
	近・現代建築意匠	2	2					
	構造力学1	2	2	1				
	材料力学	2	2					
	環境工学	2	2		1			教育効果を考慮し、平成19年度から変更
	環境工学設計演習	3	2					
	人間工学概論	1	2			1		
	人間工学測定法	2	2					—
	建築製図	1	2					+
	(材料関連)							
	造形金属材料入門	2	2					
	造形工学基礎	2	2					
	技術開発論	3	2					
	金属材料加工法	2	2					
	木質材料入門	1	2					
	有機材料入門	2	2		1			
	造形工学基礎実験	2	2					+

専門科目

(芸術文化論関連)

現代美術論

2

2

現代工芸論

3

2

伝統芸能論

2

2

1

地域産業論

3

2

文化と行政

2

2

国際観光論

3

2

1

観光英語

2

2

アートマネジメント総論

2

2

1

博物館概論

3

2

情報造形論

2

2

教育効果を考慮し、平成19年度から変更

保存と修復

3

2

(展開科目)

(情報処理関連)

インタラクティブアートプログラミング基礎

2

2

インタラクティブアートプログラミング応用

3

2

インタラクティブアートプログラミング総合

3

2

図形情報実習

3

2

+

メディアアート技術論

3

2

1

(造形関連)

インタラクティブアート応用演習

3

2

絵画A

2

2

1

絵画B

3

2

絵画C

4

2

環境絵画A

2

2

1

環境絵画B

2

2

専門科目

環境造形 A ( 塑造 )	2	2					
環境造形 B ( 木材 )	3	2					
環境造形 C ( 金属 )	3	2					
金属立体造形	4	2					
彫刻実習 ( 木彫 )	3	2	1				
彫刻実習 ( 木彫 )	4	2					
彫刻実習 A ( 塑造 )	3	2	1				
彫刻実習 B ( 塑造 )	4	2					
インタラクティブアート総合実習	4	2					
( 工芸関連 )							
工芸プロダクト・デザイン	3	2					
原型制作	3	2	1				
込型鋳造	3	2					
ジュエリー制作	<del>3</del>	2		1		+	教育効果を考慮し、平成19年度から変更
石膏鋳造	3	2					
鍛金	2	2					
生型鋳造	2	2					
蒔絵	3	2					
螺鈿	3	2	1				
漆造形表現	3	2					
食器制作	4	2					
変わり塗り	3	2		1		—	
家具デザイン・制作	3	2	1			—	
工芸プロダクト・制作	3	2					
( デザイン関連 )							

専門科目	インフォメーションデザイン演習	2	2					
	インターフェースデザイン演習	4	2	1				
	広告デザイン演習	3	2					
	ブランドデザイン	4	2					
	サインデザイン演習	3	2					
	プロダクトデザイン	2	2		1			
	事業計画立案演習	3	2	1				
	ビジュアルコミュニケーション演習 B	3	2	1			—	
	ビジュアルコミュニケーション演習 C	4	2				—	
	形態発想実習	2	2					
	プロダクトデザイン実習 A	3	2					
	プロダクトデザイン実習 B	3	2					
	(建築関連)							
	建築論	3	2	1				
	建築生産	3	2					教育効果を考慮し、平成19年度から変更
	建築設備	2	2					
	建築法規	3	2					
	木質構造	4	2					
	建築材料	3	2					教育効果を考慮し、平成19年度から変更
	構造力学2	2	2					
	空間デザインA (シルター)	3	2					
	空間デザインB (家具)	2	2					
	空間デザインC (戸建住宅)	2	2				—	
	空間デザインD (集合住宅)	3	2					
	空間デザインE	3	2					





専門科目	パブリックアート論	2		2																
	都市計画と文化	3		2																
	伝統思想論	3		2																
	地域と文化事業マネジメント	3		2																
	文化施設計画論	3		2																
	日本美術史料研究	3		2																
	伝統文化資料研究	3		2																
	(卒業研究・制作) 卒業研究・制作	4	8																	

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
10	267		277	10	268		278	
				[ 0 ]	[ 1 ]	[ ]	[ 1 ]	

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし				
2					
3					

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし				
2					
3					

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし
------

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = 0.00$$

- (注) 1 「(1) 授業科目表」は、設置認可申請書の様式第2号(その2)に準じて作成してください。
- 2 大学にあっては4年間又は6年間、短期大学にあっては2年間又は3年間の授業科目すべてについて記入してください。なお、授業科目は当該調査対象学部・学科(専攻を置く場合には専攻)ごとに記入してください。
- 3 認可時の計画を上記2による記入し、変更のあったものについては、変更部分を朱書きで見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度を(丸数字)を「備考」欄に朱書きしてください。  
 なお、2年目以降に更なる変更があった場合には、前年度の朱書きを黒字に戻した上で、当該年度の変更を朱書きで見え消し修正してください。  
 また、授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の提出日等を「備考」に記入してください。(今後、審査を受ける場合には、「平成 年 月 提出予定」と記入してください。)
- 4 「(2) 授業科目数」は、未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[ ]内に差し引き数を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: 1)
- 5 「(3) 未開講科目」は、配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由についてはできるだけ具体的に記入してください。
- 6 「(4) 廃止科目」は、認可時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由についてはできるだけ具体的に記入してください。
- 7 「(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」」欄には、授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。
- 8 「(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

### 3 施設・設備の整備状況，経費

(高岡キャンパス)

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校舎敷地	67,400㎡	0㎡	0㎡	67,400㎡				
	運動場用地	24,160㎡	0㎡	0㎡	24,160㎡				
	小 計	91,560㎡	0㎡	0㎡	91,560㎡				
	そ の 他	1,734㎡	0㎡	0㎡	1,734㎡				
	合 計	93,294㎡	0㎡	0㎡	93,294㎡				
(2) 校 舎		専 用 16,432 276,866㎡ ( 16,432 276,866㎡)	共 用 0㎡ ( 0㎡)	共用する他の 学校等の専用 0㎡ ( 0㎡)	計 16,432 276,866㎡ ( 16,432 276,866㎡)	全学表記からキャンパス 表記へ変更のため			
(3) 教 室 等		講 義 室 7 144 室	演 習 室 21 87 室	実験実習室 38 955 室	情報処理学習施設 3 22 室 (補助職員 0 40人)	語学学習施設 1 4 室 (補助職員 0 40人)	全学表記からキャンパス 表記へ変更のため		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称 芸術文化学部 芸術文化学科		室 数 48 -44 室		研究室の改修のため			
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	図書の追加及び整理の ため	
	芸術文化学部	63,102 [10,633] 75,870 [14,390] (68,670 [12,590])	1,033 [237] 940 [240] ( 900 [230])	0 [ ] ( 0 [ ])	2,055 2,150 (1,750)	24 436 (24 436)	0 ( 0 )		
	計	63,102 [10,633] 75,870 [14,390] (68,670 [12,590])	1,033 [237] 940 [240] ( 900 [230])	0 [ ] ( 0 [ ])	2,055 2,150 (1,750)	24 436 (24 436)	0 ( 0 )		
(6) 図 書 館		面 積 1,078 42,357㎡	閱 覧 座 席 数 84 4,134	収 納 可 能 冊 数 65,278 995,000			平成17年10月富山大学、富山医科 薬科大学、高岡短期大学が再編・ 統合したため 全学表記からキャンパス表記へ変 更のため		
(7) 体 育 館		面 積 1,469 7,862㎡	体育館以外のスポーツ施設の概要 テ ニ ス コ ー ト 多 目 的 グ ラ ウ ン ド				全学表記からキャンパス 表記へ変更のため		
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	国 費
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

- (注) 1 認可時の計画を設置認可申請書の様式第2号(その1)に準じて作成してください。  
 2 複数のキャンパスに分かれている場合は、キャンパス毎に作成してください。  
 3 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を備考欄に記入してください。  
 4 1により記入の後、変更のあったものについては、変更部分を朱書きで見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度(丸数字)を「備考」欄に朱書きしてください。  
 なお、2年目以降に更なる変更があった場合には、前年度のものに朱書きを黒字に戻した上で、当該年度の変更を朱書きで見え消し修正してください。  
 5 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、《別紙様式2》により、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

#### 4 既設大学等の状況

大学の名称	富山大学							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 員	学位又 は 称 号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	人	人		倍			
人文学部	4		3年次		学士		昭和52	富山市五福3190番地	
人文学科		185	10	625		1.04			平成18年定員60 185に変更
国際文化学科						1.10			平成18年度から学生募集停止
言語文化学科						1.09			平成18年度から学生募集停止
計		185	10	760		1.08			
人間発達科学部	4				学士		平成17	〃	平成18年度から学生募集
発達教育学科		80		240		1.05			
人間環境システム学科		90		270		1.08			
計		170		510		1.07			
教育学部	4						1.04		平成18年度から学生募集停止
経済学部〔夜間主コース内数〕	4		3年次		学士		昭和28	〃	
経済学科		155	}	620		1.06			
		[20]		[80]					
経営学科		135		10	540		1.07	昭和49	
		[20]		[80]					
経営法学科		115		460		1.06	昭和54		
		[20]	[80]						
計		405		1,640		1.07			編入学者数は、学部計に含める
		[60]	10	[320]					
理学部	4		3年次		学士		昭和50	〃	
数学科		50	}	200		1.09			
物理学科		40		160		1.04			
化学科		35		10	140		1.08		
生物学科		35		140		1.04			
地球科学科		40		160		1.02			
生物圏環境科学科		30	120		1.10	平成5			
計		230	10	940		1.05			編入学者数は、学部計に含める
医学部					学士		昭和50	富山市杉谷2630番地	

医学科	6	90	2年次5	560	1.00			医学科編入学は平成18年度まで3年次、平成19年度から2年次
看護学科	4	60	3年次10	260	1.00	平成5		
計		150	15	820				
薬学部							学士	昭和51
薬学科	6	55		165	1.05	平成18		
創薬科学科	4	50		150	1.01	平成18		
薬科学科	4				1.01			平成18年度から学生募集停止
計		105		530				
工学部	4		3年次				学士	昭和24
電気電子システム工学科		88	30	352	1.07			富山市五福3190番地
知能情報工学科		72		306	1.09			平成20年定員78 72に変更
機械知能システム工学科		90		354	1.19			平成20年定員88 90に変更
物質生命システム工学科					1.08			平成20年度から学生募集停止
生命工学科		52		52	1.01			平成20年度に物質生命システム工学科を、生命工学科、環境応用化学科、材料機能工学科に改組
環境応用化学科		52		52	1.03			
材料機能工学科		51		51	1.00			
計		405		1,680	1.09			編入者数は、学部計に含める
人文科学研究科	2						修士	昭和61
文化構造研究専攻		5		10	1.70			富山市五福3190番地
地域文化研究専攻		5		10	0.90			
計		10		20				
教育学研究科	2						修士	平成6
学校教育専攻		6		12	1.16			"
教科教育専攻		32		64	0.70			
計		38		76				
経済学研究科	2						修士	平成3
地域・経済政策専攻		4		8	1.37			"
企業経営専攻		4		8	4.25			
計		8		16				
生命融合科学教育部 (博士課程)							博士	平成18
認知・情動脳科学専攻	4	9		27	0.51			富山市五福3190番地
生体情報システム科学専攻	3	4		12	2.16			富山市杉谷2630番地
先端ナノ・材料科学専攻	3	4		12	0.66			
計		17		60				

医学薬学教育部						平成18	富山市杉谷2630番地	
( 修士課程 )								
医科学専攻	2	15	30	修士	0.83			
看護学専攻	2	16	32	修士	0.59			
薬科学専攻	2	30	60	修士	1.63			
臨床薬学専攻	2	16	32	修士	0.93			
( 博士課程 )								
生命・臨床医学専攻	4	18	54	博士	0.88			
東西統合医学専攻	4	7	21	博士	0.42			
生命薬科学専攻	3	18	54	博士	0.72			
計		120	283					
医学系研究科						昭和57	富山市杉谷2630番地	
( 博士課程 )								
医科学専攻	4			博士	1.03			平成18年度から学生募集停止
認知・情動脳科学専攻	4			博士	0.55			平成18年度から学生募集停止
計					0.91			
理工学教育部						平成18	富山市五福3190番地	
( 修士課程 )								
数学専攻	2	12	24	修士	0.75			
物理学専攻	2	12	24	修士	1.08			
化学専攻	2	10	20	修士	1.60			
生物学専攻	2	10	20	修士	1.70			
地球科学専攻	2	10	20	修士	1.00			
生物圏環境科学専攻	2	10	20	修士	1.45			
電気電子システム工学専攻	2	33	66	修士	1.12			
知能情報工学専攻	2	27	54	修士	1.03			
機械知能システム工学専攻	2	33	66	修士	0.88			
物質生命システム工学専攻	2	60	120	修士	1.03			
( 博士課程 )								
数理・ヒューマンシステム科学専攻	3	5	15	博士	0.86			
ナノ新機能物質科学専攻	3	6	18	博士	0.88			
新エネルギー - 科学専攻	3	5	15	博士	0.40			
地球生命環境科学専攻	3	5	15	博士	1.06			
計		238	497					

- (注) 1 学校法人又は地方公共団体(公立大学法人)が、すでに設置している大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、状況を記入してください。
- 2 認可申請書の様式第2号(その1)に準じて作成してください。
- 3 「定員超過率」欄には、各修業年限に相当する期間(学年進行中の場合は、設置後経過した年数分)における入学定員超過率の平均を4月20日現在で記入してください。
- 入学定員超過率については、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- なお、学生募集停止中の学部等については、「-」を記入するとともに、「備考」欄に「平成 年度から学生募集停止」と記入してください。



## 5 教員組織の状況

< 芸術文化学部 芸術文化学科 >

(1) 担当教員表  
(略)

(2) 専任教員数

認可時の計画						変更状況						備考
教授	准教授	講師	助教	計	助手	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
27	14	7		48	8	28	13	7	6	54	0	
( 27 )	( 10 )	( 7 )	( )	( 44 )	( 6 )	[ 1 ]	[ 1 ]	[ 0 ]	[ 6 ]	[ 6 ]	[ 8 ]	

(3) 専任教員交代の理由

番号	職位	専任教員氏名	辞任(就任辞退を含む)等の理由
1	助教授	Christopher Ramsdel	アルゼンチンで、有機農法による野菜作りを行うため、平成17年9月30日付けで退職した。
2			
3			

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

Christopher Ramsdel (前任者), Wilson Bruce Grahame (後任者) 共に母国語が「英語」で、高岡短期大学の外国人教師、他大学の外国語「英語」の非常勤講師を経験しており、学生の履修等への影響はないものとする。

- (注) 1 「(1) 担当教員」は、調査対象学部・学科等(専攻を置く場合には専攻)ごとに授業を担当するすべての教員(助手を除く。)について記入してください。(認可申請書の様式第3号(その1)に準じて作成してください。)
- なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、「共通」としてください。
- 2 「認可時の計画」欄には、認可時における完成年度までに就任予定の教員(助手を除く。)すべてについて記入してください。
- 3 「変更状況」欄には、変更があった教員についてすべて記入し、「変更状況」の欄には朱書きでの記入とし、「備考」欄にその理由、報告年度(丸数字)を朱書きしてください。
- 4 就任予定年月を過ぎてもお未就任の者については、「変更状況」欄の「就任年月」欄を朱書きで記入し、「備考」欄にその理由、報告年度(丸数字)、当該教員の担当予定科目についての措置等を記入してください。(記入例参照)
- 5 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
- 6 退職者は「備考」欄に退職年月、理由を記入してください。
- 7 2年目以降に更なる変更があった場合には、異動者については、前年度の朱書きを黒字に戻した上で当該年度の変更を朱書きで追加記入してください。「備考」欄についても同様の記入方法としてください。  
(例:平成19年4月に就任予定であった 教授が就任を辞退したため、平成19年4月から と の2名の兼任講師に変更し、さらに、平成19年10月から 専任教員に変更する場合の例。)(記入例参照)
- 8 「専任・兼任・兼任の別」欄については、専任・兼任・兼任の別を専任・兼任・兼任の順に記入してください。
- 9 「職名」の欄には、教授・准教授・講師・助教の別を記載するとともに、専任及び兼任教員については、それぞれの区分の中で、教授・准教授・講師・助教の順に記載してください。
- 10 年齢は、就任年度に関わりなく、「認可時の計画」欄には、開設時現在の満年齢を、「変更状況」欄には、当該年4月1日現在の満年齢を記入してください。
- 11 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」,「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は「後任未定」及び今後の採用計画を「備考」欄に記入してください。また、「専任教員採用等年次計画変更書(AC)」を提出し、「可」の教員判定を受けている場合は「年 月教員審査済」、変更書を提出し、教員判定の結果が出ていない場合は「年 月変更書提出済」、変更書を提出予定の場合は「年 月変更書提出予定」と記入してください。前判定があり審査が不要となる教員についてはその前判定とその授業科目名称をそれぞれ「備考」欄に( )書きで記入してください。(記入例参照)
- なお、「専任教員採用等年次計画変更書(AC)」作成要領(c)に該当するものである場合は、「備考」欄にその変更の理由、変更年度(丸数字)等のみを記入してください。
- 12 「(2) 教員数」の「認可時の計画」欄には、完成時の人数を記入するとともに、( )内に開設時の状況を記入し、「変更状況」欄には、当該年4月1日現在(就任年月に達していない者を含む)の状況を記入するとともに、[ ]内に差し引き数を記入してください。(記入例:1名減の場合: 1)
- 13 「(3) 専任教員交代の理由」欄には、認可時の計画からの専任教員交代の理由について、できるだけ具体的に記入してください。
- 14 「(4) 専任教員交代に係る大学の所見」欄には、専任教員交代に係る学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

## 6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
認 可 時 (17年10月1日)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (18年5月1日)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (19年4月20日)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (20年4月20日)	該当なし		

- (注) 1 「認可時」欄には、当該大学等の設置認可時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入し、報告年度（丸数字）を付記してください。
- 2 「設置計画履行状況調査時」欄には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料を添付してください。
- 3 入学定員超過に係る留意事項への履行状況については、4月20日現在で記入してください。
- 4 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

## 7 その他全般的事項

< 芸術文化学部 芸術文化学科 >

### (1) 設置計画変更事項等

認可時の計画	変更内容・状況，今後の見通しなど
該当なし	

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>FD活動のための単独の委員会は設置していないが，本学部教育部にFD委員会を設置する予定。</li> <li>平成18年度・19年度は，教務委員会及びメンターリーダー会議が授業アンケート，FD研修等を実施した。</li> </ul> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教務委員会 9人 平成18年度 15回 平成19年度 15回</li> <li>メンターリーダー会議 9人 平成18年度 9回 平成19年度 4回</li> </ul> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教務委員会 教育課程の編成に関する事項，授業科目の履修に関する事項，その他教務に関する事項等</li> <li>メンターリーダー会議 FDに関する研修の実施について等</li> </ul> <p>実施状況 実施されている取組を全て記載すること。</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業評価アンケート</li> <li>資質向上のための研修会</li> </ul> <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生へのアンケートの実施</li> <li>全教員を対象とした研修会の実施</li> </ul> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成18年12月7日 FD研修会 学生指導スキルアップ 参加者 23人</li> <li>平成19年3月20日 FD研修会 メンター教員としての資質向上 参加者 48人</li> <li>平成19年9月18・19日 FD研修会 CADソフトの授業への活用 参加者 25人</li> <li>平成19年12月12日 FD研修会 学生のメンタルヘルスケア 参加者 36人</li> <li>平成18年度後期 授業評価アンケート試行 15科目</li> <li>平成19年度後期 授業評価アンケート実施 104科目</li> </ul> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <p>平成18年度に試行した授業評価アンケートに基づき，アンケート内容を改善し，平成19年度後期に実施したアンケート結果がまとめ次第，各教員にフィードバックし，授業改善に資することとしている。</p>
---

### (3) 自己点検・評価等に関する事項

設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見  
(別紙のとおり)

自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

- ・平成22年10月1日 公表予定

b 公表方法

- ・ホームページ上に公開予定

・評価項目

教育理念及び目標に関すること。

教育活動に関すること。

研究活動に関すること。

教員組織に関すること。

施設設備に関すること。

国際交流に関すること。

社会との連携に関すること。

管理運営及び財政に関すること。

自己点検・評価に関すること。

組織の活動に関すること。

その他必要と認めること。

c 認証評価を受ける計画

- ・平成20年度に評価機関大学評価・学位授与機構の評価を受けるべく、学内で検討中

(4) 情報提供に関する事項

設置認可申請書

- a ホームページに公表の有無 (  有 ・ 無 )
- b 公表時期(未公表の場合は予定時期) ( 平成19年10月 1日 )
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置認可申請書」掲載ページへのリンク  
(  承諾する ・ 承諾しない )
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス  
( <http://www3.u-toyama.ac.jp/hoki01/settisin/setti.html> )

設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (  有 ・ 無 )
- b 公表時期(未公表の場合は予定時期) ( 平成19年10月 1日 )
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク  
(  承諾する ・ 承諾しない )
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス  
( <http://www3.u-toyama.ac.jp/hoki01/settisin/setti.html> )

- (注) 1 項目は、1～6の項目により記入した事項以外で、認可時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- 2 記入事項は、原則として、設置認可申請書の「設置の趣旨及び特に設置を必要とする理由を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)
- 3 「(2) 自己点検・評価等に関する事項」については、認可時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。また、「A 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、積極的な評価を行う場合、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。  
記入方法は、欄内には(別紙のとおり)とし、A4版1枚程度で作成した別紙を添付してください。  
なお、「B 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。
- 4 「(3) 情報提供に関する事項」の「 」及び「 」の「c」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載します。  
なお、未公表の場合には、公表後の取扱いについて記入してください。

## 富山大学芸術文化学部教務委員会内規

(設置)

第1条 富山大学芸術文化学部及び高岡短期大学部における教育課程の編成，その他教務に関する事項を審議するため，富山大学芸術文化学部教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

第2条 この内規は，委員会について必要な事項を定め，もって委員会の円滑な運営を図ることを目的とする。

(組織)

第3条 委員会は，次に掲げる委員をもって組織する。

- |   |     |
|---|-----|
| (1) 芸術文化学部長（以下「学部長」という。）が指名した者                          | 1人  |
| (2) 芸術文化学部教育部各教育コース及びリテラシーから選出された教員<br>（教授，准教授又は講師（常勤）） | 各1人 |
| (3) 高岡短期大学部産業造形学科から選出された者<br>（教授，准教授又は講師（常勤））           | 1人  |
| (4) 高岡短期大学部産業デザイン学科から選出された者<br>（教授，准教授又は講師（常勤））         | 1人  |
| (5) 高岡短期大学部地域ビジネス学科から選出された者<br>（教授，准教授又は講師（常勤））         | 1人  |
| (6) その他委員長が必要と認めた者                                      | 若干人 |

2 前項第2号の委員は，前項第3号から第5号の委員を兼務することができるものとする。

(任期)

第4条 前条に定める委員の任期は2年とし，再任を妨げない。

ただし，欠員が生じた場合の後任委員の任期は，前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は第3条第1項第1号に規定する者をもって充て，副委員長は委員長が指名する委員をもって充てる。

3 委員長は委員会を招集し，その議長となる。

4 副委員長は委員長を補佐し，委員長に事故があるときは，副委員長がその職務を代行する。

(審議事項)

第6条 委員会は，次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育課程の編成に関する事項
- (2) 授業科目の履修に関する事項
- (3) 学業成績の評価に関する事項
- (4) 学生の身分（懲戒を除く）に関する事項
- (5) 転学部，転コース，転入学，編入学及び再入学に関する事項

- (6) 卒業の認定に関する事項
- (7) 指導教員に関する事項
- (8) 科目等履修生，特別聴講学生，外国人留学生及び研究生に関する事項
- (9) その他，教務に関する事項  
(議事)

第7条 委員会は，過半数の委員が出席しなければ，議事を開くことができない。

2 委員会の議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員長が必要と認めたときは，委員以外の者を委員会に招き，意見を聴取することができる。

(専門委員会)

第9条 委員会が，第6条各号に定める事項を審議するため，必要と認めたときは，専門委員会を置くことができる。

(庶務)

第10条 委員会の庶務は，学務部芸術文化系学務課において処理する。

(細則)

第11条 この内規に定めるもののほか，この委員会の運営に関し必要な事項は，委員会が定めることができる。

#### 附 則

- 1 この内規は，平成17年10月1日から実施する。
- 2 この内規の実施後最初に選出される委員は，旧国立大学法人高岡短期大学教務委員会準備委員会委員をもって充て，任期は，第4条の規定にかかわらず，平成18年3月31日までとする。

#### 附 則

- 1 この内規は，平成18年4月1日から実施する。
- 2 この内規の実施後最初に選出される第3条第1号，第2号及び第6号に規定する委員は，改正前の芸術文化学部教務委員会委員をもって充て，第3条に定める委員の任期は，第4条の規定にかかわらず，平成19年3月31日までとする。

#### 附 則

この内規は，平成19年4月1日から実施する。



(別紙)

## A 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

### 1. 入学者選抜試験について

従来の美術学部を目指す志願者に加え、高等学校普通科や実業科卒業生など、芸術と芸術文化に関心を持つ学生を幅広く受け入れるため、推薦入学、帰国子女・社会人特別選抜、一般選抜(前期・後期)を行った。倍率は、次のとおり。

推薦入学(募集 35 人)3.77 倍 一般選抜 前期日程(募集 57 人)2.81 倍 後期日程(募集 23 人)5.43 倍

### 2. 融合教育について

芸術文化学部の理念の一つである融合教育を実現するために、授業時間割の作成 コース履修モデルの作成 学生への履修指導 メンター制度を推進した。

#### 授業時間割の作成

平成 18 年度の前期は、実習科目に履修希望者が予想の人数を大きく上回る授業があり、設備等の制約から複数クラスにわけるといった対策をとった。また、後期実習科目の時間割を見直し、特定の科目に学生が集中しないように工夫した。このため、平成 19 年度入学生に対しては前年度の経験を生かして前期実習科目の時間割を見直した。

#### コースの履修モデルの作成

コースの履修モデルにおいては、前提として履修しておくことが望ましい科目を明らかにして科目間の連続性をより明確にし、学生が効率よく履修計画をたてられるように配慮した。特に、プロダクトデザインを希望する学生向けは、デザイン工芸とデザイン情報の両コースに関する科目を横断的に履修する必要があることから、両コースを担当する教員により履修モデルを作成した。

#### 学生への履修指導

学生がコース横断的に幅広い分野の科目を履修するためには、科目内容や科目間の連続性をよく理解する必要があり、後期が始まる前の 7 月と次年度の前期が始まる前の 4 月に履修説明会を行った。その際、実習科目の受講調査も行い、設備や教員数にあわせて履修調整を行った。授業時間割の改善の効果もあり、全員が第一希望の実習科目を受講することができた。また、平成 19 年度入学生に対しては新入生合宿研修での履修指導と実習科目の受講調査を行った。

履修希望の多い科目については、複数のクラスを開講するなど学生の意欲に応えた。

#### メンター制度の実施

融合教育を推進するために、コース横断的な仕組みとして設けたメンター制度では、新入生合宿研修に続き、7 月にかけて 1・2 年生の状況を把握するための面談、履修説明会を実施し、学生の要望を把握し履修時間割作成などへの反映に努めた。また、12 月にはメンター教員の意識を高めるために本学保健管理センター長を講師として招き、学生のメンタルヘルスケアについての研修会を開催した。

### 3. 地域社会への貢献について

富山県と富山大学は、平成 17 年 11 月に包括的な連携協定を締結し、芸術文化学部は次の事業に参画した。

地場産業デザイン活性研究会事業として、地場産業企業に対して、商品企画や商品販売のマーケティング戦略、デザイン戦略の理解を促進し、魅力有る商品や独自ブランド等を構築し、県内企業の競争力の向上を図っていくことを目的に芸術文化学部による「県・デザイン経営塾」のセミナー及び指導・助言のためのワークショップ等を実施した。

「美の祭典 越中アートフェスタ 2007」の企画・運営・審査を複数の本学部教員で支援した。学生もフリーマーケットに参加するなど、積極的に参加した。

構造改革特区「高岡市ものづくり・デザイン人材育成特区」が認可され、高岡市教育委員会では「ものづくり・デザイン科」を新設した。本学部では、児童・生徒へ指導する教員への研修等に協力した。

高岡市の重要有形無形民俗文化財である「高岡御車山」の車輪の復元修理に、本学部教員が監修に当たり、学生も記録等に協力した。この事業を含め、地域のより一層の飛躍・発展に資するため、本学部は、高岡市と連携に関する協定を平成 19 年 11 月に締結した。

平成 19 年度現代 G P 地域活性化への貢献(広域型)に、出会い・試し・気づき・つなぐ芸術文化教育 - ものに語らせる連鎖型創造授業 - が採用された。